



平成29年9月期 第3四半期決算短信(日本基準)(非連結)

平成29年8月2日

上場会社名 株式会社 夢テクノロジー

上場取引所 東

コード番号 2458 URL <http://www.yume-tec.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 本山 佐一郎

問合せ先責任者 (役職名) 取締役副社長 (氏名) 金子 壮太郎

TEL 03-6420-3828

四半期報告書提出予定日 平成29年8月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年9月期第3四半期の業績(平成28年10月1日～平成29年6月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 四半期純利益 | |
|-------------|-------|------|------|------|------|------|--------|------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 29年9月期第3四半期 | 5,332 | 25.9 | 171 | 39.5 | 168 | 47.7 | 110 | 51.4 |
| 28年9月期第3四半期 | 4,236 | 21.0 | 283 | 19.6 | 323 | 12.5 | 227 | 4.4 |

| | 1株当たり四半期純利益 | 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 |
|-------------|-------------|--------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 29年9月期第3四半期 | 8.75 | 8.63 |
| 28年9月期第3四半期 | 19.71 | 19.69 |

当社は、平成29年4月25日を効力発生日として当社普通株式1株を2株に分割しておりますので、「1株当たり四半期純利益」「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」につきましては、当該分割が前事業年度の期首に行われたと仮定して算定しております。

(2) 財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 | 1株当たり純資産 |
|-------------|-------|-------|--------|----------|
| | 百万円 | 百万円 | % | 円 銭 |
| 29年9月期第3四半期 | 3,809 | 2,644 | 69.3 | 204.36 |
| 28年9月期 | 3,340 | 2,432 | 72.5 | 196.93 |

(参考)自己資本 29年9月期第3四半期 2,641百万円 28年9月期 2,423百万円

当社は、平成29年4月25日を効力発生日として当社普通株式1株を2株に分割しておりますので、「1株当たり純資産」につきましては、当該分割が前事業年度の期首に行われたと仮定して算定しております。

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|------------|--------|--------|--------|-------|-------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 28年9月期 | | 20.00 | | 20.00 | 40.00 |
| 29年9月期 | | 20.00 | | | |
| 29年9月期(予想) | | | | 10.00 | |

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

当社は、平成29年4月25日を効力発生日として当社普通株式1株を2株に分割しておりますので、平成28年9月期及び平成29年9月期第2四半期の配当額は株式分割前の配当金の額を記載しております。

3. 平成29年9月期の業績予想(平成28年10月1日～平成29年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | | 1株当たり当期純利益 |
|----|-------|------|------|------|------|------|-------|------|------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 7,400 | 27.5 | 180 | 58.4 | 180 | 61.6 | 120 | 70.4 | 9.28 |

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

当社は、平成29年4月25日を効力発生日として当社普通株式1株を2株に分割しておりますので、業績予想における「1株当たり当期純利益」につきましては、当該分割を考慮した金額を記載しております。

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

| | | | | |
|-------------------|----------|--------------|----------|--------------|
| 期末発行済株式数(自己株式を含む) | 29年9月期3Q | 12,925,200 株 | 28年9月期 | 12,305,200 株 |
| 期末自己株式数 | 29年9月期3Q | 株 | 28年9月期 | 株 |
| 期中平均株式数(四半期累計) | 29年9月期3Q | 12,638,900 株 | 28年9月期3Q | 11,540,294 株 |

当社は、平成29年4月25日を効力発生日として当社普通株式1株を2株に分割しておりますので、「期末発行済株式数(自己株式を含む)」「期中平均株式数(四半期累計)」につきましては、当該分割が前事業年度の期首に行われたと仮定して算定しております。

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予測数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、様々な要因によって大きく異なる可能性があります。上記の予想数値に関する事項につきましては添付資料P.3「1.当四半期決算に関する定性的情報 (3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

| | |
|--------------------------|---|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | 2 |
| (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 3 |
| 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 | 3 |
| 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 | 3 |
| 3. 継続企業の前提に関する重要事象等 | 3 |
| 4. 四半期財務諸表及び主な注記 | 4 |
| (1) 四半期貸借対照表 | 4 |
| (2) 四半期損益計算書 | 5 |
| 第3四半期累計期間 | 5 |
| (3) 四半期財務諸表に関する注記事項 | 6 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 6 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 6 |
| (セグメント情報等) | 6 |
| (重要な後発事象) | 6 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間における我が国経済は、雇用及び所得環境の改善による個人消費の持ち直しや輸出の回復、企業収益の改善を受け、緩やかな回復基調が続いております。しかし、北朝鮮を巡る軍事的緊張の高まりや、仏大統領選や米国政権を巡る不透明感など海外経済の動向に引き続き注視しなければならない状況にあります。

当社の顧客企業が属する自動車・電気機器・半導体などの製造業界におきましては、海外経済の回復により好調となった輸出などを背景に、素材・加工業種ともに改善傾向となりました。また情報系エンジニアの派遣先となるIT業界においても、企業収益の改善により設備投資が回復基調を強めており、インフラ整備や情報セキュリティ分野へのIT投資需要は引き続き高い水準となりました。またInternet of Things (IoT) や人工知能 (AI) をはじめとした先端的IT技術の研究開発への投資も拡大しております。いずれの業界も依然として人手不足は深刻化しており、エンジニアに対する需要は引き続き活況となりました。

このような事業環境の下、「新中期経営計画」に基づき、若手及び女性エンジニアの活躍が期待できる新たなマーケットの開拓を進めてまいりました。またIT関連需要の拡大を受け、製造業・IT業以外の企業への派遣も拡大しております。

採用市場に関しては、人材に関する引き合いの増加に伴い、供給不足の状況が継続しております。当社は、これまで進めてきました若手や女性、外国人エンジニアの積極採用に加え、需要の拡大するIT技術の習得に注力するIT育成エンジニアの採用強化も進めております。当第3四半期累計期間で採用人数は655名（前年同四半期362名）となり、その結果、平成29年6月末現在の在籍エンジニア数は1,559名（前年同月末1,091名）となっております。

また人材育成の強化を掲げ、主にIT技術を中心とした研修内容の充実を図りました。これまでハイクラスなITエンジニアの教育・育成を主な事業とする関連会社にて、当社エンジニアのIT研修を委託しておりましたが、積極的な採用により、研修対象者の大幅な増員を見込んでいるため、JavaプログラミングやCCNAをはじめとした実践的なIT研修を内製化いたしました。

当社は拡大する需要に対応するため、更にエンジニア数を増やし、会社の規模を拡大していくことが重要であると考えております。そのため当期は採用計画を見直しより積極的な採用を行っているため採用人数及び在籍エンジニア数の増加に伴う一時的な稼働率の減少や、求人費・教育研修費等の増加が見られます。

以上の結果、売上高5,332百万円（前年同四半期比25.9%増）、営業利益171百万円（前年同四半期比39.5%減）、経常利益168百万円（前年同四半期比47.7%減）、四半期純利益110百万円（前年同四半期比51.4%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期会計期間末における総資産の残高は3,809百万円（前事業年度末は3,340百万円）となり469百万円増加いたしました。

(流動資産)

当第3四半期会計期間末における流動資産の残高は2,980百万円（前事業年度末は2,489百万円）となり490百万円増加いたしました。

主な要因は、受取手形及び売掛金の増加、現金及び預金の増加によるものであります。

(固定資産)

当第3四半期会計期間末における固定資産の残高は806百万円（前事業年度末は833百万円）となり27百万円減少いたしました。

主な要因は、建物の増加及び投資有価証券の減少によるものであります。

当第3四半期会計期間末における負債の残高は1,164百万円（前事業年度末は907百万円）となり257百万円増加いたしました。

(流動負債)

当第3四半期会計期間末における流動負債の残高は888百万円（前事業年度末は638百万円）となり249百万円増加いたしました。

主な要因は、短期借入金の増加、未払法人税及び賞与引当金の減少によるものであります。

(固定負債)

当第3四半期会計期間末における固定負債の残高は276百万円（前事業年度末は268百万円）となり7百万円増加いたしました。

主な要因は、退職給付引当金の増加、長期借入金の減少によるものであります。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産の残高は2,644百万円(前事業年度末は2,432百万円)となり212百万円増加いたしました。

主な要因は、新株予約権の行使による資本金及び資本剰余金増加、四半期純利益の計上による利益剰余金の増加、配当金の支払いによる減少、投資有価証券評価差額金によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年9月期通期の業績につきましては、平成29年5月2日に公表いたしました内容に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

| | 前事業年度 (平成28年9月30日) | 当第3四半期会計期間 (平成29年6月30日) |
|---------------|-----------------------|----------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 1,406,645 | 1,760,715 |
| 受取手形及び売掛金 | 811,216 | 1,000,461 |
| その他 | 271,711 | 219,294 |
| 貸倒引当金 | △81 | △101 |
| 流動資産合計 | 2,489,492 | 2,980,370 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物(純額) | 30,499 | 47,143 |
| 工具、器具及び備品(純額) | 12,667 | 18,102 |
| 有形固定資産合計 | 43,166 | 65,246 |
| 無形固定資産 | 11,290 | 23,911 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 647,410 | 576,749 |
| 敷金及び保証金 | 52,958 | 57,261 |
| その他 | 78,200 | 82,848 |
| 投資その他の資産合計 | 778,569 | 716,859 |
| 固定資産合計 | 833,026 | 806,017 |
| 繰延資産 | 17,706 | 23,050 |
| 資産合計 | 3,340,224 | 3,809,437 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 短期借入金 | — | 350,000 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 25,000 | 15,000 |
| 未払金 | 51,341 | 47,160 |
| 未払費用 | 160,309 | 186,109 |
| 未払法人税等 | 85,975 | 837 |
| 未払消費税等 | 121,381 | 120,453 |
| 賞与引当金 | 172,816 | 108,208 |
| その他 | 21,829 | 60,860 |
| 流動負債合計 | 638,654 | 888,628 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 20,000 | 5,000 |
| 退職給付引当金 | 248,234 | 270,314 |
| その他 | 712 | 712 |
| 固定負債合計 | 268,946 | 276,027 |
| 負債合計 | 907,600 | 1,164,655 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 1,101,487 | 1,267,072 |
| 資本剰余金 | 578,443 | 744,028 |
| 利益剰余金 | 790,592 | 649,225 |
| 株主資本合計 | 2,470,523 | 2,660,326 |
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | △47,299 | △18,914 |
| 評価・換算差額等合計 | △47,299 | △18,914 |
| 新株予約権 | 9,400 | 3,369 |
| 純資産合計 | 2,432,624 | 2,644,781 |
| 負債純資産合計 | 3,340,224 | 3,809,437 |

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位:千円)

| | 前第3四半期累計期間 (自平成27年10月1日 至平成28年6月30日) | 当第3四半期累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年6月30日) |
|--------------|--|--|
| 売上高 | 4,236,515 | 5,332,390 |
| 売上原価 | 3,167,832 | 4,026,970 |
| 売上総利益 | 1,068,683 | 1,305,420 |
| 販売費及び一般管理費 | 785,044 | 1,133,699 |
| 営業利益 | 283,638 | 171,721 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 155 | 7 |
| 投資有価証券売却益 | 4,974 | 6,963 |
| 投資事業組合運用益 | 44,233 | — |
| その他 | 1,525 | 5,144 |
| 営業外収益合計 | 50,888 | 12,115 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 1,301 | 477 |
| 投資事業組合運用損 | 1,037 | 1,041 |
| 債権売却損 | 937 | 897 |
| 投資有価証券売却損 | 6,384 | 694 |
| 新株予約権発行費償却 | — | 7,826 |
| 株式交付費償却 | — | 3,986 |
| その他 | 1,683 | — |
| 営業外費用合計 | 11,344 | 14,924 |
| 経常利益 | 323,182 | 168,911 |
| 特別利益 | | |
| 新株予約権戻入益 | — | 980 |
| 特別利益合計 | — | 980 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除却損 | 2,102 | 1,661 |
| 特別損失合計 | 2,102 | 1,661 |
| 税引前四半期純利益 | 321,080 | 168,231 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 61,502 | 33,160 |
| 法人税等調整額 | 32,096 | 24,533 |
| 法人税等合計 | 93,598 | 57,694 |
| 四半期純利益 | 227,482 | 110,537 |

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期累計期間において、新株予約権の行使により資本金及び資本剰余金がそれぞれ165,584千円増加し、当第3四半期会計期間末において資本金が1,267,072千円、資本剰余金が744,028千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自平成27年10月1日 至平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

| | 報告セグメント | | 合計 |
|-------------------|-----------------|--------------|-----------|
| | エンジニアアウトソーシング事業 | N&Sソリューション事業 | |
| 売上高 | | | |
| 外部顧客への売上高 | 3,707,726 | 528,789 | 4,236,515 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | — | — | — |
| 計 | 3,707,726 | 528,789 | 4,236,515 |
| セグメント利益 | 253,157 | 30,481 | 283,638 |

(注) セグメント利益の合計金額は四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期累計期間(自平成28年10月1日 至平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

| | 報告セグメント | | 合計 |
|-------------------|-----------------|--------------|-----------|
| | エンジニアアウトソーシング事業 | N&Sソリューション事業 | |
| 売上高 | | | |
| 外部顧客への売上高 | 4,481,696 | 850,693 | 5,332,390 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | — | — | — |
| 計 | 4,481,696 | 850,693 | 5,332,390 |
| セグメント利益 | 147,846 | 23,874 | 171,721 |

(注) セグメント利益の合計金額は四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。